研究分科会Ⅰ　中・高等学校　　ＮＩＥ・総合

研究主題	「新聞活用」　その前に考えたいこと ～メディアリテラシー教育の立場から新聞活用を考える～	提案者	北海道 広尾町立広尾中学校 石　川　　晋

１.はじめに

メディアは、どのように構成され、どのような方法で私たちのもとに届けられているのか。今メディアの圧倒的な影響下にあって、メディア活用に先立って、情報の質を見ぬく力、情報を有効に活用できる力を身につけることが求められている。また、そのためにメディアの仕組みを理解したり、メディアの構成を知ることを目的とした教育が大切になる。いわゆる「メディアリテラシー教育」である。

私は「メディアリテラシー教育」を次のように定義している。１０年来取り組んできた経験から、中学生にも理解可能な言葉に置き換える必要を感じているからである。

メディアを批判的・分析的に読み取り、メディアを豊かに活用できる能力を育てる教育。

実際に展開してきた実践内容は、テレビ、ラジオ、ビデオクリップ、雑誌、ゲーム、インターネットなど多岐にわたるが、今回は、特に新聞メディアに特化して実践を報告する。

２．取り組みの概要

実践例１：新聞記事を比較する授業

新聞記事を分析する手法として、手ごろでしかも有効なのは「比較」の手法である。新聞記事の権威というのは子どもたちにもしみついているわけだが、各誌の紙面を比較するだけで、見えなかったことがたくさん見えてくる。

「ニホンオオカミ再発見」で話題となった新聞記事の各紙比較による授業では、新聞記事の報道姿勢によって、読み手の考え方が大きく左右されることを体験した。

実践例２：リサーチリテラシーの授業

「主張」「データ」「論拠」の検討は、活字メディア情報を読む上で重要である。センセーショナルな見出しと内容とに大きな違いがあることも多い。「リサーチ・リテラシー」（谷岡一郎氏）の考え方は、こうした点に注目させる上で、重要な考え方である。『朝日新聞』に掲載された「小学生だってやせたいもん」という記事を使って、「主張」「データ」「論拠」の関係を分析する授業を行った。生徒は、新聞記事から、事実や曖昧な点などを丁寧に読み取っていた。

実践例３：新聞記事並べ替えゲーム

荒れ模様になる天候を伝える短い記事や、短い事件事故の記事のセンテンスをバラバラにしたものを与えて、それを並べ替えて復元させる。その過程で、記者の伝えたいことの順番などを考える授業を行った。

いわゆるベタ記事にも、センテンスの並び順などに明確な考え方があることが多い。生徒は、短い記事に至るまで、送り手の「構成」がなされていることに気づく。

３．研究の成果と課題

メディアリテラシー教育を、学校教育に位置づけるためには、教科や総合との関連付け、カリキュラムとの整合性の問題や、系統性を明らかにする必要など、課題が山積である。小さな実践を積み上げていく必要とともに、専門的にメディアリテラシーを学ぶ機会や場所を作り出していくことも重要である。